

～平成22年3月31日

平成22年4月1日～

農場 [耕地]

設置目的: 農学に関する教育・研究を農業生産の場としての耕地において行う。生物生産を機軸にした環境との調和を保つ次世代型農学・農業の構築に向けて研究を推進。

設置年月: 明治11年1月 (多摩農場 昭和10年8月)

土地: 221, 823㎡

東京都西東京市



水田

緑地植物実験所 [緑地]

設置目的: 緑地生物及び鑑賞用植物についての研究, 学生実習の場の提供。

設置年月: 昭和40年4月

土地: 47, 139㎡

千葉県千葉市花見川区



ハス見本園

演習林田無試験地 [林地]

設置目的: 森林に関する基礎的ならびに応用的試験研究を行うとともに、学生の実習に供する。7つの地方演習林の一つ。弥生地区から約1時間の至便な武蔵野段丘上に位置し、武蔵野の林・植物相を有する都市林を形成している。

設置年月: 明治27年11月 (田無試験地 昭和4年10月)

土地: 91, 541㎡

東京都西東京市



試験地本館

各施設はそれぞれの所在地において、各々の設置目的に基づき教育・研究を行ってきた。

生態調和農学機構

教育研究部

○情報・社会研究領域 [新設]

農林業と社会の関係性を、食品の安全、環境保全、景観形成などの観点から究明する。情報学、農業経済学、農村社会学、景観生態学などの学問分野に基礎を置く。

○農林生態系研究領域 [主に田無試験地, 旧緑地植物実験所]

生態系サービスを人類が持続的に享受する見地から、農林生態系の評価法や管理手法を究明する。森林生態学、緑地環境学、保全生態学などの学問分野に基礎を置く。

○生物・物質循環研究領域 [主に旧農場]

さまざまなスケールの物質循環を念頭に、農林業と環境をめぐる生物の機能と物質の挙動を究明する。植物栄養学、作物学、木質科学、環境農学などの学問分野に基礎を置く。

※研究領域は、研究プロジェクトにより容易にクロスオーバーする。

企画室

技術部

事務室

環境安全管理室分室

組織・場所・目的を一つに統合し、耕地・緑地・林地からなる西東京フィールドをベースに、持続的な生態系サービスと調和する農林業と社会のあり方を探求する農学の教育研究拠点。

3つの研究領域と教育を接続する制度設計、カリキュラム構築を行い、新たな教育研究を展開する。